

おわりに

2014（平成 26）年度自己点検・評価報告書は、2016（平成 28）年度に受審する大学認証評価に伴い、大学基準協会の様式「大学基礎データ」「大学データ集」、そして本学卒業式アンケートのデータ振り返りから作成を行った。

建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」を標榜する本学において、そのデータから読み取る内容は、その校風に相応しい教育・研究の体制を構築し、実績を残していると思料する。

教育の質保証等、その具体については、2015（平成 27）年度自己点検・評価報告書に記載をしているが、この各種データから導かれる課題設定、今後の改善方策等について、2011（平成 23）年 5 月に設置した教育改善推進室、2014（平成 26）年 8 月に設置した Institutional research（IR）センターによる情報の集約（一元化）、分析等を経て、PDCA を回す体制を構築している。

本学においては、2014（平成 26）年度に学園中長期計画「～TDU Vision2023～」を策定し、今後の 10 年間における学園のあるべき姿を明示している。この中長期計画に基づき、2017（平成 29）年度には、全学的改編として新学部の設置、工学部の改組を予定しており、2018（平成 30）年度には理工学部改編、工学部第二部改編、2020（平成 32）年度には大学院改編を計画している。

このような大事業を推進していく中で、真の課題を探求し、しかるべき責任体制の下、本学がさらなる発展を遂げていくためには、構成員一同の意識改革に基づいた教職協働が必須となる。

東京電機大学はどうあるべきか、常日頃から原点に立ち戻り、現状を定量的・定性的に把握しつつ、次の施策を検討し、PDCA を回していく活動こそが、本学の発展に一番の近道となり、これには不断の努力が求められるが、引き続き輝き続ける大学であり続けるため、構成員一同、額に汗を掻き業務を推進していく。

以 上